

本校では、「自ら学び、共によりよく生きようとする子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」の育成をめざしている。

今年度も「凡事徹底」を継続し、「挨拶」「時間」「掃除」の3点を重点とし、現状と課題解決のための取り組みを、継続・深化・充実させていく。

【現状と課題】

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 基本的な生活習慣の確立のため、特にあいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の校門指導や「あいさつ週間」の指導、学級での取り組みにより、あいさつすることへの意識の高まりが見られるようになっている。さらに、児童会活動のあいさつの呼びかけもあり、自ら進んであいさつができるようになってきている。今年度も昨年度から強化した看護当番体制を維持し、登校時や休憩時間の過ごし方の指導や看護の徹底を図っていく。言葉遣いについては、多くの子どもたちがその場にあった話し方ができるようになってきているが、相手を傷つける言葉遣いは依然として見られ、トラブルが大きくなる原因ともなっている。あいさつの励行や相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級指導で注意を促すことを今後も継続的に進めていく。
- ② 安全安心な学校生活を過ごすためには、ルールを守ることが重要であることを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、チャイムの合図や遊びのルール等については多くの児童がルールを守ることができているが、登校時刻を守れていない児童については家庭環境による影響もあり、改善がなかなか図られていない。「時間を守る」ことの大切さについて児童に徹底した指導を進めていくとともに保護者への啓発もより一層行っていく必要がある。学校安心ルールについてもあらゆる機会をとらえて指導を行うなど、規範意識を高めるための指導を学校全体で徹底して行っていく。
- ③ たてわり班活動で集会、清掃、行事などの活動を継続して取り組むことにより、異学年交流が深まり相手を思いやる心の育成が図れている。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果「いじめや仲間外れ」についてより深く考える児童が増えている。今後も道徳の授業や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自尊感情の醸成を図っていけるよう取り組んでいく。
- ④ 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に关心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てるために普段の清掃活動以外に児童会が主となってたてわり清掃も実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切にしようとする気持ちを育てていきたい。
- ⑤ 地域清掃活動や防災学習など、保護者や地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。学校HPを活用し情報発信に努めたため、閲覧件数も大幅に増え地域・保護者にも浸透しつつある。今後も一層の情報発信に努めるとともに、児童の健全育成のために区や地域、こども園・隣接の小中高等学校との連携を進めていく。

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- ① 毎朝の算数タイムにより、計算力の向上等、算数科の基礎的、基本的内容の定着を図っている。また、児童の語彙力向上のために辞書引き学習にも取り組んできた。さらに、日常的に

少人数授業や習熟度別授業を実施するなど、学習形態や指導形態の工夫に努め学習内容の充実を図っている。大阪市学力経年調査においては、前年度に比べ大幅な改善が見られ、一定の手ごたえも感じられた。しかし、まだまだ課題も多くその差もあるため、少人数授業や習熟度別授業を深化充実させ、よりきめ細やかな指導を行うとともに、地域や家庭の協力を得、児童の学習環境を整えていく必要がある。

- ② 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで、興味関心を喚起させ、その中で発表する力や書く力、集団で活動する力を身につけさせるように取り組んできた。また、発表話型を提示・活用する指導や発表形態の工夫を行ったため、多くの児童がしっかりと発表できるようになってきたが、活発な発表や内容の充実が図られるまでには至っていない。
- ③ 学校全体で児童が主体的・対話的で深い学びができるよう指導法を工夫した授業研究を行っている。講師を招いて研修会を開き指導力の向上に努めたり、各種の研修会に積極的に参加したりしている。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう、より一層指導力向上ための研修を充実させる。
- ④ I C T 機器(タブレット・パソコン・大型テレビ等)・デジタル教科書などを整備し、有効活用した授業実践を行うことで、わかりやすい授業づくりに努めてきた。また、プログラミング教育の取り組みを行うことで、児童の抵抗感をなくし、I C T 機器を活用することの楽しさを味わわせることができた。
- ⑤ 家庭学習の習慣化を目指し、学校だよりや保護者懇談を通じて周知している。家で、授業の復習をする児童も増えつつあるが、その割合はまだ高いとは言えない。学校H Pなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さを理解してもらえるよう啓発や呼びかけを行っていく。
- ⑥ なわとび週間やかけあし週間、学級単位のみんな遊びの取り組みや放課後の校庭開放時間の延長、遊具の改善や新たな運動用具の学級配付など、運動能力向上のための様々な取り組みにより、多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身についてきている。その結果、全国体力・運動能力調査において大幅な改善が見られた。しかし、家庭環境などにより、積極的に運動に取り組めない児童も依然としており、高学年になるにつれて、運動能力の差が激しくなっている。運動環境の整備や年間を通じた体力向上の取り組みをさらに継続して取り組む必要がある。
- ⑦ 定期的に行う手洗い・うがいがんばり週間などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上してきている。
- ⑧ 栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導するとともに、家庭への啓発を積極的に行う必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和2年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに90%以上にする。（**施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現**）

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに90%以上にする。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

- 令和2年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに85%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、令和3年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率を対全国比80%以上にする。また令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させ、学力経年調査4教科合計を対象全ての学年で対市90以上にするとともに、国語・算数において2学年以上で大阪市平均またはそれを上回るようにする。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 令和2年度算数検定(1~6年)や漢字検定(3~6年)の合格率を平成30年度よりも向上させ、それぞれ75%、70%以上にする。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 主体的で対話的な深い学びのある授業実践を行い、令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成28年度より増加させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和2年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

(施策6 國際社会において生き抜く力の育成)

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「家で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答を80%以上に、保護者アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を70%以上にする。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における20mシャトルラン・反復横跳びの平均の記録を平成28年度よりも向上させる。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を90%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。**(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)**

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。(H30 100%)
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。(H30 89.4%)
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(H30 1 件)
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(H30 0.54%)

学校の年度目標

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、平成 31 年度末の児童アンケートにおける「すすんでいきたい」と答える児童の割合を 90%以上にする。(H30 95%)
- 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、平成 31 年度末の児童アンケートにおける①「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「②学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85%以上にする。(H30 ①96% ②95%)
- 地域清掃活動や防災学習など、保護者や区・地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、近隣小中高等学校との連携、学校HPの活用などにより、平成 31 年度末の保護者アンケートにおける、①「学校は、教育方針や教育活動について情報発信にこだわっている」の項目と、②「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 85%以上にする。(H30 ①87% ②86%)

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 2 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 2 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査（校内調査）における①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(H30 60.7%)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を男女とも大阪市平均以上にする。

学校の年度目標

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ＩＣＴ機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける①「学校の授業はわかりやすい」②「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。(H30 ①91% ②83%)
- 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うことで令和元年度の漢字検定の合格率を60%以上(H30 54%)に、算数検定合格率を70%以上(H30 65%)にするとともに、家庭学習の習慣化を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける①「家で復習や他の教科の勉強をしている」の項目についての肯定的回答を75%以上に、保護者アンケートにおける②「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を55%以上にする。(H30 ①68% ②48%)
- 食育の充実や家庭への啓発を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答をともに90%以上にする。(H30 ①87% ②93%)
- 体力づくりの取り組みや環境の整備などを通じて、児童の体力・運動能力を向上させるとともに、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。令和元年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりとするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を引き続き85%以上にする。(H30 ①95% ②92%)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立 平林小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。(H30 100%) ○ 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。(H30 89.4%) ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(H30 1 件) ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (H30 0.54%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける「すすんでいきさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。(H30 95%) ○ 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、令和元年度末の児童アンケートにおける①「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と②「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85% 以上にする。(H30 ①96% ②95%) ○ 地域清掃活動や防災学習など、保護者や区・地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、近隣小中高等学校との連携、学校HPの活用などにより、令和元年度末の保護者アンケートにおける、①「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、②「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 85% 以上にする。(H30 ①87% ②86%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんでいきさつをすることができるよう に学校・学年・生活だより学校HP等で保護者への啓発を図る。 <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p>	

- 児童会のあいさつ週間においては、ポスターをつくり、校内の啓発を図る。また、事前にあいさつについての指導を学級で行い、毎日、自分は場に応じたあいさつができたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。また、あいさつ運動すすめ隊以外の児童もあいさつ運動に参加できるようにし、児童がお互いにあいさつしあえるような環境をつくる。

(カリキュラム改革関連)

B

指標

- 児童会が企画した「あいさつ活動」を年2回以上実施する。
- 生活だよりを年12回以上発行したり、あいさつ運動の様子などをHPに掲載したりするなどして、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】

- 思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面においてたてわり班活動を充実させる。
- 全校朝会で道徳心や社会性を高めるための講話をを行う。また、人権・平和についての学習を全校で行い、命の大切さや人権について考える機会を多くとる。

(カリキュラム改革関連)

B

指標

- 秋に全校遠足を行うほか、児童集会でのたて割り班活動以外にも、学期に1回以上、異学年交流を実践する。
- 全校朝会では、毎回道徳心や社会性を高める講話を毎回行い、人権・平和学習の日を設けて全校で命の大切さや人権について考える。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- 防災学習や清掃活動などを地域、保護者、関係諸機関と連携を取って進めていく。
- 地域のこども園と連携し、校庭を開放する。その中で小学校のことを知ってもらったり、児童との関わりの機会を持つてもらったりする。
- 学校だより、学年だより、生活だより等を発行し、学校の教育方針を保護者に対して事前に明示しておく。また、普段の学習の様子や行事の様子を学校ホームページに掲載し、教育活動を発信していく。

(カリキュラム改革関連)

B

指標

- 地域や保護者にも参加してもらえる行事として、防災学習や地域清掃を全校行事にして取り組む。
- 学校の教育方針を示した各お便りを毎月発行する。
- 行事や取り組みごとに、学校ホームページを更新し、HPアップ数を週5回以上目指す。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①あいさつの啓発は、目標通り取り組みができているが、自発的にできるようになるような取り組みが必要である。
- ②児童集会やプール水泳・運動会など、異学年交流を予定通り取り組むことができた。継続して取り組んでいく。
- ③指標としている項目について予定通り取り組むことができた。継続して取り組んでいく。

次年度への改善点

--

(様式例 2)

大阪市立 平林小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 3 ポイント減少させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 2 ポイント増加させる。 ○ 小学校学力経年調査（校内調査）における①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（H30 60.7%） ○ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を男女とも大阪市平均以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的学習や外部人材の積極的活用・ I C T 機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける①「学校の授業はわかりやすい」②「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 85% 以上にする。 (H30 ①91% ②83%) ○ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うことで令和元年度の漢字検定の合格率を 60% 以上（H30 54%）に、算数検定合格率を 70% 以上（H30 65%）にするとともに、家庭学習の習慣化を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける①「家で復習や他の教科の勉強をしている」の項目についての肯定的回答を 85% 以上に、保護者アンケートにおける②「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を 50% 以上にする。（H30 ①68% ②48%） ○ 食育の充実や家庭への啓発を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答をともに 90% 以上にする。（H30 ①87% ②93%） 	B

- 体力づくりの取り組みや環境の整備などを通じて、児童の体力・運動能力を向上させるとともに、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。令和元年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を引き続き 85%以上にする。(H30 ①95% ②92%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために指導法の工夫に取り組む。</p> <p>○学ぶ楽しさを感じることができるとの授業づくりを行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <p>○研究授業を実施計画通り、年 1 回以上行い、そのうち外部に 1 回以上公開する。</p> <p>また、校内自主研修を 5 回以上行い、授業力アップを目指し、「わかる授業」の実践に努める。</p> <p>○学ぶ楽しさを感じることができるように、タブレットを使った授業を月 2 回以上行う。</p>	B
<p>取組内容② 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○チームティーチングや少人数クラス、習熟度別クラスで授業を行い個に応じたきめの細かい指導を行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○レディネステストをもとに習熟度別少人数授業ごとにクラス分けを行い、個に応じたきめの細かい授業を年間 7 単元以上行う。</p>	
<p>取組内容③ 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○体験的学習や外部人材の積極的活用・ I C T 機器や図書館の有効活用により授業改善を行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <p>○外部人材を活用した授業を、学年で年間 1 回以上行う。</p> <p>○国語と算数の授業開始 2 分間にフラッシュ暗算や漢字のフラッシュカードなどの学習を行う。</p> <p>○地域の図書館より学期に 1 回の学級図書の貸し出しを行い、読書推進委員会発行の読書カードを活用し、1 人年間 50 冊以上の読書量を目指す。</p>	B
<p>取組内容④ 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○学校便りや学校ホームページを積極的に活用し、家庭学習の大切さについて啓発していく。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○学校ホームページに、学期に 2 回は各学年で授業や発表の様子をアップし、家庭学習の大切さについての記事を載せる。</p> <p>○自主学習の取り組みを 3 年生以上で行い、家庭学習の習慣をつける。</p>	

<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○食育を推進し、食に関する指導の充実に取り組む。そのために給食週間を設け、食への興味・関心を高められるように指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○栄養教諭による食育指導を各学年で年間2回行う。</p> <p>○「食育だより」を月1回配布し、食に関する指導を行う。</p> <p>○給食週間を年間1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために正しい姿勢の指導を行い、手洗い・うがいがんばり週間、チェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識や望ましい態度を学ばせる。</p>	B
<p>○「保健だより」等を発行し、保護者・地域への啓発を行う。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <p>○手洗い・うがいがんばり週間を年3回、正しい姿勢の指導（体幹トレーニング）を年5回以上行い、「保健だより」等を年11回以上発行し、すべての教育活動を通じて健康で安全な生活習慣を身につけさせる指導を行う。</p>	B
<p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動を充実させる。そのために、なわとび週間や外遊びの日を設けて、全校児童の運動能力の向上を図る。</p>	B
<p>○体育の時間、各学年にあった時間と距離のかけ足運動を取り入れる。</p> <p>○なわとび週間を2週間以上行う。</p> <p>○外遊びの日を学級で設けて、1週間に1度は外遊びを行う。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①LAN回線の工事も終わったので、目標の月2回以上のタブレット活用に努める。</p> <p>②算数科で習熟度別・TTなどの学習形態の工夫をし、児童のやる気や学力の向上に役立っている。</p> <p>③フラッシュ暗算や漢字フラッシュカードの活用をタブレットや電子黒板でも行う。</p> <p>④年度当初の目標では、自分の学年分を学期に2回ホームページにアップすることになっていたが、単学級のため授業をしながら写真を撮ることもなかなか難しい。学年部会ごとに誰かがアップしているのが現状である。年度末に向け意識して取り組んでいく必要がある。また、自主学習については指標を示し、取り組みに励む。</p> <p>⑤⑥計画通り順調に取り組みができている。</p> <p>⑦元気に外遊びする児童もいたが、暑さもありなかなか体力向上とまでは至っていない。冬に向け体力をつけるために取り組みを進める必要がある。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	